



特集 わが市町村の創生(後編)

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE
Vol.41 March.2017

contents

.....
巻頭随想
苦言提言
地(知)の拠点大学による
地方創生推進事業(COC+)
地域シンクタンク
市町村の元気印



machijim^{an}

お問い合わせ先

〒400-0411 山梨県南アルプス市西南湖4302番地
 ・重要文化財安藤家住宅 TEL 055-284-4448
 ・南アルプス市教育委員会文化財課 TEL 055-282-7269



シリーズ
ま・ち・自・慢

Minami-Alps-City

南アルプス市

春の訪れを古民家で — 重要文化財安藤家住宅 —

南アルプス市西南湖にある重要文化財安藤家住宅は、今から約300年前の江戸時代半ば、宝永5年（1708年）に建てられました。幸いにも一度も火災にあうことなく伝えられ、主屋の屋根裏に取り付けられていた祈禱札の発見により、正確な建築年代が判明しました。かつて安藤家は村を代表する名主を務める豪農であったので、家の格を示すため、一般民家にはない式台付玄関などみることができま

安藤家住宅は学校の社会科見学のコースに取り入れられ、生きた教材としても活用されています。また南アルプス市を代表する地域文化発信の拠点として、何度も訪れてもらい、愛される場を目指し定期的にイベントを開催しています。

今年も2月9日（木）から4月3日（月）まで一大イベントである「雛祭り」が開催されます。市民から寄贈された江戸から昭和までの雛飾りを展示しています。目玉である享保雛は、面長な顔に切れ長な目をした能面に似た表情と、着物に綿や金欄を使っているといった特徴があります。市内の家々を彩った雛人形を安藤家住宅でぜひご覧ください。

やまなし

自治の風

Yamanashi JICHI no KAZE

Vol.41 March.2017

Contents

Yamanashi JICHI no KAZE Vol.41 March.2017

まち自慢

南アルプス市

02 巻頭随想

「生まれてよかった 育ってよかった 住んでよかった」と思えるまちを目指して
身延町長 望月 幹也

04 苦言提言

審議会等に何を求めるのか
山梨学院大学法学部教授・政治行政学科長・学長特別補佐 丸山 正次

05 特集「わが市町村の創生(後編)」

20 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

23 自治 Q & A

26 講演録

30 ICTの推進

32 地域シンクタンク

34 市町村の元気印

36 がんばっていま~す。

38 はつらつ!!市町村職員

40 市町村振興協会たより

時の人

編集後記



表紙写真 浮世絵の世界へ 名勝猿橋

江戸時代、歌川広重の浮世絵にも描かれた「名勝猿橋」。月や緑、川の流れる、今も変わらず昔のままの風景を川面から眺めることができることから、地域おこし協力隊がラフティングボートによる観光遊覧船を運航し、新たな猿橋の魅力発掘に取り組んでいます。

【大月市提供】

「生まれてよかった 育ってよかった 住んでよかった」と思えるまちを目指して

望月 幹也

身延町長



望月 幹也 (身延町長)

PROFILE

昭和34年	7月18日	身延町切房木生まれ
昭和54年	4月	山梨県庁 入庁
平成26年	4月	総務部市町村課長 就任
平成27年	4月	身延町副町長 就任
平成28年	10月	身延町長 就任

千円札と旧五千円札のデザイン(本栖湖からの富士山)

身延町は山梨県の南部に位置し、峡南地域に属しております。町の中央の北から南に、日本三大急流の一つに数えられる富士川が流れ、また、富士川を挟んで東西それぞれに急峻な山岳地形が連なり、西方には七面山(標高1,989m)、東方には毛無山(標高1,964m)などがそびえています。

町の主要幹線としましては、富士川の東側には静岡県の富士駅と山梨県の甲府駅を結んでいるJR身延線が、西側には静岡市清水区を起点に甲府市に至る国道52号が南北に走っており、東には世界遺産の富士山や富士五湖方面への動脈である国道300号が伸びています。また、平成31年度中の開通を目指して中部横断自動車道の建設及び300号の改良工事が進んでおります。

本町は、平成16年9月13日に下部町、中富町、身延町が合併して、既に12年が経過いたしました。合併後の平成16年10月1日の町の人口は17,340人でしたが、平成29年2月1日の人

口は12,728人となり、4,612人も減少してしまいました。65歳以上は5,481人で高齢化率43・06%となっております。また、周囲の急峻な山に囲まれ、面積の約80%が山林という地形の為、町内では働く場所も限られ、町外や県外に出てしまう傾向が強くなっており少子高齢化と人口の減少は大変大きな課題となっております。

主要観光資源としましては町の南に日蓮宗総本山の「身延山久遠寺」があり、年間120万人の方々が全国から参拝・観光に訪れております。特に身延山境内の樹齢400年のしだれ桜は、全国しだれ桜10選のひとつで、3月末から4月上旬が見頃となり、この桜を見に県内はもとより県外から訪れる方も多く、参拝者の心をなごませてくれています。

東には戦国時代、甲斐の名将武田信玄公が、川中島の合戦で受けた肩の傷を癒したと伝えられている、日本名湯百選に選ばれた「下部温泉郷」や2012年に富士山が世界文化遺産に登録され、

それらの構成資産であります本栖湖もございます。本町と富士山の関係を、皆様にご理解して頂きやすいのが、現在の千円札と旧五千円札の裏面のデザインでございます。千円札と旧五千円札の裏面のデザインは、富士五湖のひとつである本栖湖畔の身延町側から望む富士山の姿が描かれております。これは、富士山写真家の故・岡田紅陽氏（1895年～1972年）が撮影した「湖畔の春」をモデルに描いたデザインであります。また、富士山が世界文化遺産に登録されたことを機に環境省が進めている「富士山ビューポイント整備」の一環で、世界遺産である国立公園にふさわしい質の高い利用を推進しようと、本栖湖西岸の「中ノ倉峠」の展望台に、展望デッキや解説標識等が設置されました。ビューポイントから晴れた日には、瑠璃色に輝く富士山が本栖湖の水面に逆さ富士となって映り、千円札、旧五千円札と同様の構図でご覧いただけます。ご自身の目でご覧いただければ必ず感動する、すばらしい景色でございます。

また北には古くから手漉き和紙の産地として有名な西嶋地区があり、「なかとみ和紙の里」として美術館併設の紙漉き体験工房があります。2009年に若田光一宇宙飛行士が、当地の書道紙を使用して宇宙で人類初の書道に挑戦し「夢」「探求心」「思いやり」の書をしたためました。現在、この書は「なかとみ和紙の里」の宝として多くの皆様に閲覧していただいております。

町として大きな期待をしておりますのが、中部横断自動車道の新清水ジャンクション・増穂インターチェンジ間の開通であります。現在、静岡と



中部横断自動車道「下部温泉早川インターチェンジ」建設 写真提供：株式会社 リナン

甲府・長野方面とを結ぶ中部横断自動車道の建設が平成31年度中の開通を目指し進められており、町内に「身延山インターチェンジ」「下部温泉早川インターチェンジ」「中富インターチェンジ」の三つのインターチェンジが整備されます。このインターチェンジが活用できることにより、大いに活性化が図られることに期待しております。また、今まで主要幹線の国道52号や県道が、台風や大雨の時に雨量規制等で通行に支障をきたしておりました。開通により、沿線各地を結ぶ走行時間の大幅な短縮、災害時等の輸送ルートの確保、広域観光の振興など大きな効果が期待されていきます。特に静岡市や甲府市等の都市部が通勤可能エリアとなり、就業の選択肢も多くなることで、若者が町内で生活し、自然豊かなこ身延町で子育てをして頂けるものと期待しております。

本町では、昨年度身延町総合戦略を策定いたしました。町の進むべき方向は、「人口の減少に歯止めをかけること」を指すことだと考えております。しかし、昭和22年から現在までの長い間の人口減少の状況から、人口の減少に歯止めをかけることは大変難しいと判断しております。今後少しでも抑制ができるよう「身延町まち・ひと・しごと創生総合戦略」で5つの基本目標を掲げ、実現に向けて効果的な施策を実施して参る予定でおります。

また、本町は本年度から、「しだれ桜の里」プロジェクトを開始しました。これは、身延高校の女生徒からの提案事業で、町内をしだれ桜の名所にするものです。クラフトパークに3年間で5,000本のしだれ桜を植樹し、今後町内に広めて日本一のしだれ桜の里を目指すものです。この「しだれ桜の里」プロジェクトの話題性が、誘客に結び付くものと確信しております。

特産の「あけぼの大豆」につきましては、本年度から種子の確保と6次産業化を図る事業を開始しております。枝豆の収穫体験には、県内外からたくさんの方にお越し頂いております。この収穫体験にお越し頂いた方々には、是非町内の各施設にも立ち寄っていただくとともに、宿泊もして頂けるようにPRしていきたいと思っております。

町では、目指す将来像を「安らぎと活力あるひらかれたまち」として、このように多様な観光資源を活用しながら、活力と幸せを実感できるまちづくりを推進することとし、「生まれてよかった育ってよかった住んでよかった」と思えるまちの実現に向けて、まちづくりを進めております。



身延山久遠寺境内の樹齢400年のしだれ桜

審議会等に何を求めるのか

平 成3年に山梨学院大学法学部に
行政学科（平成14年に政治行政
学科と改称）が誕生し、私はその若手
メンバーの一人として山梨に赴任して
きました。当学科は、当時としては日
本の私学では唯一の政治学と行政学を
同時に学べる学科でした。それから4
半世紀がたち、多くの卒業生が県内は
もとより、全国で公務員や議員になる
ようになりました。私はこの学科のな
かで「政治哲学（理論）」を研究・教
育しているので、自治体の施策に直接
関わるような研究・教育をしている者
ではありません。そこで、この誌面
では、私がこれまで関与してきたさま
ざまな市町村の「審議会等（〇〇審議会、
〇〇審査会、〇〇委員会）」について、
とくに「会長（委員長）」の委嘱を多々
受けてきた（現在も受けていますが）
者の目から見て思うところを述べたい
と思います。

最初は、審議会等の日程の設定です。
審議会等の日程は、多くの場合事前に
調整を図ってくれますが、時に勝手に
定めてくる場合があります。その理由
は「市長日程」と「業務日程」そして、
「会議室の空き具合」です。「委嘱」と
いう行為自体が、外部の人への行政行

言 言 提 提

Kugen Teigen

丸山 正次

masatsugu maruyama

山梨学院大学法学部教授
・政治行政学科長・学長特別補佐



為に関わる任務依頼である以上、外部者の都合をもっと考慮すべきだと思いますが、いかがでしょうか。

次に委員構成です。審議会等の委員は、議員と違って、事務局の意向で任意に選定できる部分が多いと思われるかもしれません。もちろん、いわゆる「充て職」も多くあるので、個別の人選までは意図が及ばないことはありますが、それでも条例に定められた範囲内の裁量権は大きいと思います。だからこそ、逆に、人選には結構気を使うことになっているようです。このとき、できるだけ無難な人選にしておきたいという気持ちは理解できます。しかし、会議で一度も発言しない人がいたり、「私に発言を求めたりしないで」と最初の会議後にそつと言ってくるような人が選ばれることには疑問がわきます。いたずらに混乱を持ち込もうとする人はたしかに迷惑ですが、異なる意見の効用はやはりあるわけで、「多様性」が発揮できる会議になるように、人選にはもっとアンテナを広く張ってほしいと思います。

そして次は、事前の打ち合わせです。これは、丁寧さのレベルが実際には大きく異なっています。審議会等の会議の議長は、基本的に会長（委員長）があたるので、そのときの会議の主な議題、そして議題のなかでのポイントな

どは事前に知っておきたいものです。ところが、これをしないで、資料と次第だけが送られてきて議長をしたことが何回もあります。また、会議参加者（委嘱者）のなかで、ある程度情報を貰えたと助かる参加者について、情報をくれないことが多いです。事務局は、予断を与えたくないし、個人評価になる可能性があるので説明しないのかもしれないませんが、議長としては、知っておきたいことも多いです。事前の打ち合わせは、できるかぎり、丁寧にしてほしいと思います。

最後に、審議会等の目的です。言うまでもなく、審議会等には設置目的があります。しかしその目的は、たいていの場合、かなり抽象的になっています。だからこそ、審議会等からの答申や意見が、首長の政治的決断や計画策定にどの程度現実的な効力を持つかで評価は分かれるのだらうと思います。それは仕方がないとして、事務局としては、何をどこまで求めるのかは、明確にしておいてほしいと思います。そうすることが、生産性の高い議論を生むように思います。

以上単なる私論でしかありませんが、審議会等の事務局担当者による違いは本当に大きいので、記させていたいただきました。担当者に期待しています。